

市の北を中央線が通ると、甲州街道沿いは衰退傾向に入った。しかし間もなく下河原線の設置により府中に大工場が立地し、大正時代に入り京王線が敷かれると、又新しい発展を見せるようになった。この頃より東京自身の人口は急増し、関東大震災後に山手環状線外に伸びはじめた住宅化の進展により、電車もスピードを速め、通勤電車としての性格を持つようになってきた。又昭和初期に誘致された娯楽施設・工場等は、日本の産業の飛躍的発展の結果もたらされたもので、この期が二度二市にとって、都市施設整備期になったわけで、都市としての発展の基礎をつくった。戦後は疎開人口、産業回復とともに、二市の発展がもたらされたが、特に昭和30年以後には、東京都心との結びつきが緊密になり、東京を母市とする西郊住宅地として発展するようになった。これは東京への過度の人口集中、資本主義的経済の繁栄、都内の地価の高騰、電車のスピードアップにより、都内からの流入人口が激増した結果、小地主群が発生し、小規模な住宅が急増した。

こうして母市東京に依存する通勤住宅地としての変化を見せたわけで、又近年の大資本による団地・集団住宅地の増加はますますこの傾向を強めている。つまり30年以後の二市の発展は、それまでの二市を中心とした発展という性格が無くなり、東京の住宅衛星都市として大都市圏東京の中に完全にまきこまれており、東京西郊に位置する二市の地域の性格はここに特徴的な変化を遂げたことになる。そして現在における二市の都市構造は、交通・住宅・商工業ともに都市的発展を反映している。そしてすでに住宅都市としての当面の都市問題をかかえているが、複雑な問題がからみ、問題解決は容易でない。又都市計画は将来の予想にもとづく計画ではなく、悪化した現状に対する対策でしかない。しかし、地域の様相はそれらと共になお変化しつづけ、都市の複合化、高次の都市的発展へと続いていくであろうと思われる。

防府市における 干拓地の地理学的研究

小 倉 晃 子

調査地域は山口県の瀬戸内海周防灘沿岸地域のほぼ中央に位置している防府市にある干拓地である。

論文を要約すると次のようになる。

第一章 干拓地の築立と歴史的発達

藩の財政事情を直接の要因とした毛利藩の新田開発政策のもとに、水田・塩田の開発を目的として近世以降約280年の間に1,600haの干拓地が防府に於いて形成された。地形的には当時島

であった田島山・同島を陸地化させ、現在の防府平野の約1/2の面積を占めるに至った。その間、農業・塩業の2つの産業活動が行われ、このなかでも塩業は毛利藩内のみならず、瀬戸内塩業のなかでも大きな役割を占め、近世の間に非常な発展をした。

第2章 土地利用の変化

明治以降も農業用地・塩田の2つの土地利用は続き、農業・塩業の産業活動が行なわれていた。しかし、昭和8年をもって工業用地が出現して以来、多くの土地利用変化が生じた。最も大きな変化は塩業国策上の理由から昭和34年をもって全く塩田が消滅してしまったことである。そのため一時広大な塩田跡地が全く無活動地域として残存したが、その後昭和39年に防府市が周南地区工業整備特別地域に指定されて以来、塩田跡地の工業用地化の計画がなされ、一応の落ち着きを得ることができた。一方、農業用地も飛行場・工業用地、さらに最近では宅地へと転地され、面積的に大巾に減少した。又築立完成後100年を経た現在、再び新たな干拓地が出現したという土地利用上な大きな変化もあった。このような変化を経た現在では農業用地・工業用地の2つが主な土地利用となっており、この2つの土地の上に農業・工業の2つの産業活動が行われている。

第3章 干拓地上で行なわれている産業

農業：農業用地は築立以来の伝統から殆んど田として利用されており、農業用水にも恵まれ、表作に水稻を裏作に麦を栽培する米麦中心の作付利用状況を示し、農家は水稻中心の農業経営を行なっている。しかし1戸あたりの経営耕地規模過小という致命的悪条件のため農業収入は非常に少く実際には兼業の方へ農家の労働力の重点が行っており、農業は飯米確保を目的としている。なお昭和41年・42年に完成した干拓地においては、新たな農地を基盤とした農業構造の改善と経営規模の拡大により、付近地域の農業経済の安定を図ることを目的とした農業活動が昭和43年から行われようとしている。

工業：工業は現在のところは三田尻湾岸を中心とした臨海立地状況を示し、全ての工場の業種は化学となっている。もともと瀬戸内工業地域の一工業地区としての位置を占めているとはいえ、最近の他の瀬戸内工業地域のような大規模な重化学工業化の現象は生じてはならず、防府軽工業地区としてまとまってしまっており、工業化は遅れているといえる。しかし周南地区工業整備特別地域に指定されて以来、大規模な工業開発の計画が本地域の臨海地及び海上をめぐるてなされており、これからの工業開発に大いに期待がかけられている。以上のことから、これから本地域は工業地域として発展していくことは明らかであると思われる。従って、今後、本地域に残されている問題は地域住民の生活安定を考えた上で、工業開発を如何に進めていくかということであると思う。